

県 外 派 遣 報 告 書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第48回関東中学バスケットボール大会	開催地	群馬県前橋市
報告者名 (所属連盟)	山崎雅洋 (高体連) 赤羽沙耶 (ミニ連) 若林謙作・神門康治 (中体連)	派遣期間	平成30年8月7日～9日
参加者 (所属都 県)	<p>【本部】 渡邊整、平原勇次 敬称略</p> <p>【指名】 蒲健一、長谷川裕、小坂井郁子</p> <p>【2泊審判員】 荘司愛(千葉)、中澤美保子(神奈川)、山崎雅洋(栃木) 北島寛臣(埼玉)、加藤暁生(東京)、手塚清孝(山梨)</p> <p>【1泊審判員】</p> <p>千葉：円谷怜美、相木康岳、林原潤 埼玉：伊藤裕一、山岸大輔、大井陽平 神奈川：山岡忠、佐藤優樹、成田幸子 東京：松浦咲、吉宇田太一、井澤元花 栃木：若林謙作、赤羽沙耶、神門康治 山梨：丸山淳、荻野健、大木裕一</p> <p>【中体連】 藤代透(関東)、林原潤(千葉)、加藤祭(神奈川)、若林謙作(栃木)、若林哲(埼玉) 草野伸明(東京)、古屋勝司(山梨)、佐藤賢佑(茨城)、吉田和樹(群馬)</p> <p>群馬県審判員</p>		
【審判会議内容】			
<p>○3POメカについて (主なポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3POもメカがどんどん変わってきているので、柔軟に対応をできるようにすること。 ・ボールサイドツォを作り続ける意識を忘れないこと。 ・ローテーションをスムーズに行うためのクローズダウンの徹底。 ・3人の協力 (特にシュートが2点か3点の共有) ・TOとの連携、クロック関係の管理を1試合通して行うこと。 ・プライマリーエリア、アングルの理解をしっかりと。 ・1試合通して判定をし続ける集中力。 ・止まったままではなく、プレーに合わせた動きをし続けること。 ・プレゼン、声の使い方など、場に合った取り組みをすること。 <p>○大会の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負けたら引退という中学生にとって非常に大切な大会であるので、子どもたちがコートでベストを尽くすことができるように我々レフリーも意識を高くもって取り組む。 			

県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

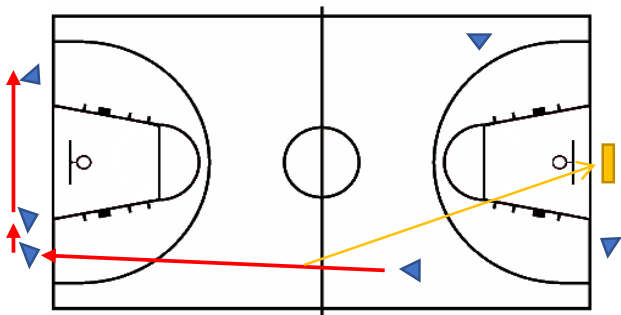
大会名	平成30年度 第48回関東中学バスケットボール大会	開催地	群馬県前橋市
報告者名 (所属連盟)	山崎雅洋 (高体連) 赤羽沙耶 (ミニ連) 若林謙作・神門康治 (中体連)	派遣期間	平成30年8月7日～9日
参加者 (所属都 県)	<p>【本部】 渡邊整、平原勇次 敬称略</p> <p>【指名】 蒲健一、長谷川裕、小坂井郁子</p> <p>【2泊審判員】 荘司愛(千葉)、中澤美保子(神奈川)、山崎雅洋(栃木) 北島寛臣(埼玉)、加藤暁生(東京)、手塚清孝(山梨)</p> <p>【1泊審判員】</p> <p>千葉：円谷怜美、相木康岳、林原潤 埼玉：伊藤裕一、山岸大輔、大井陽平 神奈川：山岡忠、佐藤優樹、成田幸子 東京：松浦咲、吉宇田太一、井澤元花 栃木：若林謙作、赤羽沙耶、神門康治 山梨：丸山淳、荻野健、大木裕一</p> <p>【中体連】 藤代透(関東)、林原潤(千葉)、加藤祭(神奈川)、若林謙作(栃木)、若林哲(埼玉) 草野伸明(東京)、古屋勝司(山梨)、佐藤賢佑(茨城)、吉田和樹(群馬)</p> <p>群馬県審判員</p>		

【審判会議内容】

平原氏よりコート研修が行われた。実際にコート上で行うことでイメージが付きやすく、その後の試合で意識しながら取り組むことができた。

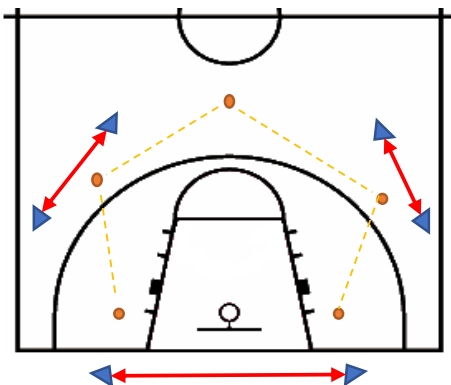
〈リードの入り方〉

■ ショットクロック



- ①トレイルからリードに入る際、走りながらショットクロックが動いているかを確認する。
- ②リードに入る際に内側の足から1、2で止まる。(オープンアングル、45度)
- ③クローズダウン→ローテーション

〈チェックイン、チェックアウト〉

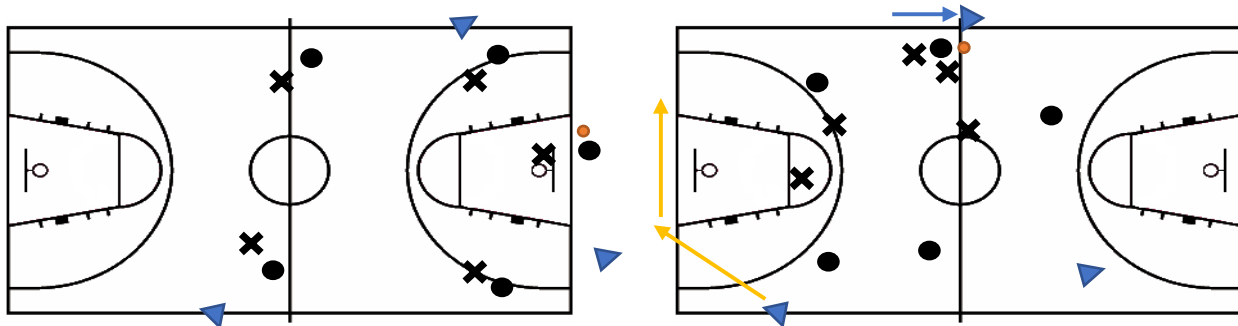


- ・ボールを動かしていく。
- ・それに合わせ、ローテーション、アングルアジャストを行う。
- ・チェックインのタイミングで手を挙げ、チェックアウトのタイミングで手を下げる。同時に「チェックイン」「チェックアウト」の声も出す。

審判員名	CC: 星野由貴氏(群馬) U1:中澤美保子氏(神奈川) U2:穂川苑子氏(群馬)	
カード	準決勝 陽南(栃木) - 八王子一(東京)	
審判主任	蒲健一氏(指名)	草野伸明氏(東)林原潤氏(千)松浦咲氏(東)成田幸子氏(神)赤羽沙耶

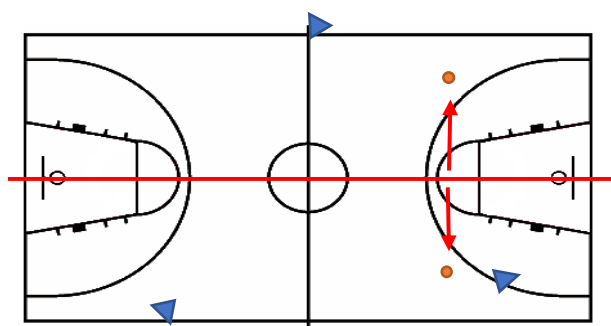
◇ ミーティングの内容

〈ボール運びの際にセンター側でダブルチームがあった時のリードローテーションのタイミング〉



・ディフェンスが当たっているのでは直ぐにはリードに入れない状況

・どのタイミングでリードに入るべきか。リードに入るのが遅れてローテーションが遅くなる場面があった。



・ボールが運ばれてくる段階でミドルラインよりもどちらにボールがあるかで判断する。
 ・トレイル、リード側にある時は残る。
 ・センター側にある時はなるべく早くリードへ入る。

※この記録表は、各自で記入して審判委員長に提出して下さい。

県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第48回関東中学バスケットボール大会	開催地	群馬県前橋市
報告者名 (所属連盟)	山崎雅洋 (高体連) 赤羽沙耶 (ミニ連) 若林謙作・神門康治 (中体連)	派遣期間	平成30年8月7日～9日
【感想・県内審判員へ伝達したいこと】 <p>今回1泊審判員として参加しましたが、最終日の割当も含め4試合担当させて頂きました。3年生は負ければ引退、ベスト4に入れば全中へ繋がる大会。どの試合も緊張感のあるものでした。</p> <p>大会前のコート研修でご指導いただいたこと、特にトレイルからリードへ入る際にショットクロックを確認しながら走ることは直ぐに実践できることでもあり、課題としていることでもあるので、強く意識して取り組みました。</p> <p>最終日には女子決勝の割当をいただき、プレイヤーの頃に夢見ていた舞台に立たせていただいたこと感謝申し上げます。メカニクスはコート研修や予選でご指導いただいたこと、普段県内でご指導いただいていることを意識し取り組みました。判定の部分でグレーのものを黒とってしまうことがあり、もっとプレイを長く見られるような予測、準備がまだまだ足りていないことを痛感しました。今後、この経験を活かし改善できるよう、日々取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>最後に今回の派遣に際しましてご尽力いただきました、渡邊整関東ブロック長、渡邊諭栃木県審判長をはじめ県内審判員の皆様、お世話になった群馬県審判員の皆様、大会関係者各位に感謝申し上げます。</p> <p>(赤羽沙耶)</p>			

<p>今大会は初日から全試合3POでの運営ということで開催されました。3POの意義であったり、メカを再確認し、クルーで協力して取り組むことができました。プレゲームカンファレンスのときも動画を活用して、プレーの理解をしたり、エリアやアングルの確認をして試合に臨みました。また、試合中もクルーで常にアイコンタクトを密にとることで、ゲームをスムーズに運営できることを改めて学ぶことができました。</p> <p>実技講習ではボールが自分のエリアからなくなったからといってすぐにはチェックアウトするのではなく、クルー（ローテーション）の状況等でタイミングがかわる場合もあることなども学ぶことができました。</p> <p>今回の派遣に際して、渡邊整ブロック長、渡邊諭栃木県審判長をはじめ県内審判員の方々、お世話になった群馬県審判員の方々にも感謝申し上げます。</p> <p>(神門康治)</p>			
---	--	--	--